

健やかな毎日を過ごす

ためには、病気にかけ

にくい体づくりとともに、事

前の予防策が欠かせませ

ん。肺炎の予防には、ワク

チン接種がとても有効で、

発症する可能性を減らし

ます。特に高齢の方や免

疫力が低下している方に

としては、重症化を防ぐ大

事な方法です。

代表的なワクチンとして

は、肺炎球菌ワクチンやイ

ンフルエンザワクチンがあ

ります。

肺炎球菌

は、肺炎の

原因菌とし

て最も多

く、90種類

以上の型が

存在します。これに対する

ワクチンには、以下のもの

があります。

・ニューモバックスNP®

(PPSV23…23価肺炎

球菌多糖体ワクチン)

・プレベナー20®

(PCV20…20価結合型

肺炎球菌ワクチン)

・バクニュバンス®

(PCV15…15価結合型

肺炎球菌ワクチン)

・キャップバックス®

(PCV21…21価結合型

肺炎球菌ワクチン)

ニューモバックスNP®

は65歳の定期接種に用い

られます。効果は約5年続

くといわれ、その後新た

会)。他の結合型肺炎球菌

ワクチンは任意接種とな

ります。特にPCV20はよ

り長く効くことが期待で

きます。

インフルエンザワクチン

も肺炎予防に役立ちます。

インフルエンザウイルスに

感染すると免疫力が低下

し、肺炎球菌やインフルエ

ンザ菌などの細菌による二

次感染が起こりやすくなり

ます。その結果、肺炎を併

発することがあります。

亡を82%阻止する効果が

あったとされています。

インフルエンザは例年12

月～4月頃に流行し、例年

1月末～3月上旬に流行の

ピークを迎えますので、12

月中旬までにワクチン接種

を終えることが望ましいと

考えられます。

ワクチン接種による副

作用には、接種部位の腫れ

や痛み、発熱、頭痛、倦怠

感などの軽度なものから、

まれにアナフィラキシー

を見ることが大切です。

いわて医療通信【命に関わる身近な病気】

3. ワクチンで肺炎を予防

ご自身に最

適なワクチン

の種類や接種

時期について

は、主治医や

最寄りの医療

機関へお気軽

にご相談くださ

い。適切な

予防接種で、合併症や重症

化のリスクを未然に防ぎま

のよい日に行い、接種後は

しょう。

岩手医科大学

内科学講座呼吸器内科分野

川田 一郎

